

[講演概要] 清華大学蔵戦国竹簡（壹—柒）の字迹分類

福田 哲之

「字迹」とは、書写（刻文・鑄造等を含む）された文字を指す術語である。従来、「字体」あるいは「書体」などの語が用いられてきたが、その定義は必ずしも明確ではなかった。他方、戦国竹簡の大量出土により、字間や編痕・契口位置・各種の符号など竹簡の形制との関連も視野に入れた新たな術語が求められ、近年、中国における古文字学の分野を中心に「字迹」が定着し、李松孺氏による専著『戦国簡帛字迹研究—以上博簡为中心』（上海古籍出版社、2015年）も出版されている。今回の報告における「字迹」という術語の使用は、こうした状況を踏まえたものである。

清華大学蔵戦国竹簡（以下、清華簡と略記）の字迹分類については、すでに『清華大学蔵戦国竹簡』各冊の出版にともない、李守奎氏、羅運環氏、李松孺氏、賈連翔氏などの研究が発表されてきている。筆者は先にこれらの研究を踏まえて、第一冊（壹）から第六冊（陸）までを対象に字迹分類を試みた（拙稿「清華簡（壹—陸）の字迹分類」待刊）。その際、新たに以下の二つ基軸を設定した。

一つめは書法様式である。清華簡には『保訓』および『良臣』・『祝辞』のように他の諸篇とのあいだに顕著な書法風格上の相違を示す篇が存在する。私見によれば、その背景には書手個人にかかわる相違とは性格を異にする、地域や用途などの要因が考慮されるが、従来の分類ではこうした異質性が十分に反映されていなかった。そこでまず全体を書法様式の観点から三類に大別した。第Ⅰ類は楚系通行体の様式であり、『保訓』・『良臣』・『祝辞』以外の大部分の諸篇が属する。第Ⅱ類は晋系通行体の様式であり、『良臣』・『祝辞』二篇が属する。第Ⅲ類は、通行体とは異なる正体に近い楚系謹飭体の様式であり、『保訓』一篇が属する。

二つめの基軸は判別字である。先行研究における字迹の分析をみると、その大部分は書法にかかわる分析が中心となっている。また各類（種）の字迹の例示においては、竹簡の文字列の一部や特徴的な文字が挙げられているが、それらの多くは相互に字種を異にするため、各類（種）間の相違点を客観的に把握することが難しい。そこで、できるだけ常用的な文字でかつ客観的指標となる形体上の相違点をもつ十一の判別字を選出し、それにもとづき第Ⅰ類の諸篇をAからLまでの十二種に分類した。

さらに今回、二つの基軸を新刊の第七冊（柒）所収の『子犯子餘』・『晋文公入於晋』・『趙簡子』・『越公其事』の四篇に適用した結果、これらはすべて第Ⅰ類のB種に属することが明らかとなり、先に提起した判別字の有効性が確認された。また第七冊（柒）の公表によってB種の用例が増加した結果、第六冊（陸）までの時点では明確に把握できなかったB種とC種との近接性が裏付けられた。以上の第一冊（壹）から第七冊（柒）までの分類を竹簡の形制などとの関係を含めて整理すると〔別表〕のようになる。

清華簡は現在刊行中であり、あくまでも中間報告にとどまるが、今回はこの分類にもとづき、上述した二つの基軸を中心に清華簡の字迹の特徴を明らかにし、字迹分類から見えてくる清華簡の構成や性質、第Ⅰ類各種の相互関係などについて、現時点での見通しを述べてみたい。

〔別表〕清華大学蔵戦国竹簡（壹―柒）の字迹分類（篇名は各冊所収「字形表」の略称に従う）

類 種	I																					簡 數	完簡 簡長 (cm)	簡背 數字	編 痕	篇 題 (通行字体に従う)	書法 風格												
	A			B						C						D																							
冊	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹	壹															
篇名	尹至	尹誥	耆夜	金滕	祭公	說命 上中下	琴舞	芮良夫	赤歸	三壽	皇門	孺子	太伯 甲乙	子犯	晉文公	陸	趙簡子	越公	算表	湯丘	雷門	管仲	程寤	楚居	繫年	筮法	別卦	厚父	封許	命訓	子產	良臣	祝辭	保訓					
簡數	05	04	14	14	21	17	28	15	28	28	13	18	14/12	15	08	20	11	75	21	19	21	30	09	16	138	63	08	13	06	15	29	11	05	11					
完簡簡長(cm)	44.9—45.0	45.0—45.1	45.0—45.2	45.0—45.1	44.9—45.1	44.7—45.3	44.7—45.1	44.8—45.1	44.9—45.2	44.9—45.2	45.0—45.4	44.9—45.1	44.9—45.1	45.0—45.1	45.2	41.5—41.7	41.5—41.6	41.4—41.8	43.4—43.7	44.3—44.6	44.4—44.5	44.2—44.8	44.5	47.4—47.6	44.4—45.1	34.8—35.1	15.8—16.0	43.7—44.2	50.6 (殘簡最長)	44.9—45.0	32.6—32.8	32.7—32.8	28.5—28.6						
簡背數字	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆)	有(別筆)	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	有(同筆)	有(同筆)	有(同筆?)	有(同筆?)	有(同筆?)	無	無	無	無	無						
編痕	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	三道	二道	二道	二道	二道	二道	二道	二道	二道					
篇題(通行字体に従う)	「耆夜」末尾簡14背面下部(同筆) 「周武王有疾周公所自以代王之志」末尾簡14背面下部(同筆) 「祭公之顧命」末尾簡21正面下端(別筆) 「傅說之命」各篇末尾簡背面下部(同筆) 「周公之琴舞」簡首背面上端(同筆) 「周公之頌志」(別削)簡首背面(同筆) 「赤歸之集湯之屋」末尾簡15背面下部(同筆) 「殷之高宗問於三壽」末尾簡28背面上部(同筆)																																						
書法風格	I 厚父と類似																																						

(二〇一七年五月七日 福田哲之 作成)